

ア・ホール・ニュー・ワールド

古座川町立明神中学校 3年 奈 須 麻 実

皆さんは、自分や自分以外の全ての人が暮らす社会の生活について、具体的に考えたことはあるだろうか。なければ、今少しでいいので考えてみてほしい。全ての人が豊かで公平に暮らしていける社会づくりはできているだろうか。そう、例えば高齢者の方、障がいのある方の社会生活はどうだろう？

私がそのことを考えたのは、人権学習で「高齢者・障がい者理解」について学んだ時だった。取り組みの中に高齢者体験と車椅子体験があった。視界や関節などの動きを制限して移動や運動をしたし、車椅子を交互に押し合い、自分で動かしたりもした。どちらもまず、普段当たり前前にできていたことができない不便さを感じた。さらにその後、「自分も高齢者になった時階段でこけるかもしれない。車椅子を使うなら移動のときぶつかるかもしれない。」と、実際に体験して恐怖にも近い不安が際立ってきた。その時、最初に話したように、私は自分たちが今住んでいる古座川町で暮らしていく姿を想像してみた。そうして高齢化が進む町は、私が感じた不便さや不安をどれだけ解消してくれているのだろうか、と気になった。

私たち、すべての人が豊かで公平な社会生活を送るにあたって重要になってくるのが、バリアフリーとユニバーサルデザインだ。では、もう一つ考えてみてほしい。それは現状の社会でバリアフリーやユニバーサルデザインがどれくらい意識されているのか、だ。

今年の夏休み、私達の学級は、古座川町内を回った。目的は、人権学習を通して学んだこと、すなわちバリアフリーとユニバーサルデザインの視点で自分たちが住む町を見ることだ。自分たちがこれから暮らしてく町は、全ての人が住みやすい町の作りになっているのか。私が感じた不便さや不安は、果たして解消さ

れる町なのか。役場や公民館、保健福祉センターなど町の中心となる施設から公衆トイレ、道路、町営バスの停留所まで、実際にメモを取りながら調べた。エレベーター、手すりの形、道幅、段差、点字や多言語の音声案内など、十分な設備が備わっている部分、足りない部分を調査した。

改めて見ると、古座川町は福祉が設備を充実させようとする取り組みを行っていた。しかし、現状改善しなければならないと感じるところも多々あった。

この町に住んでいく私たちは、この現状を受け入れ不便さや不安を抱えたまま生活しなければならないのか。いや、私たちが変えていくべきだ。一気にすべてを解決できなくても、今まで学んできたことを使って少しずつ良くすることからできるのではないか。

そう考えた私たちは、調査の結果を資料にまとめ、古座川町の町長さんに時間を取っていただき報告させてもらった。私たちの視点で見た町の現状、素晴らしいところ、課題と解決策など、私たちの考えを直接伝えることができた。また、町長さんからもお話をしていただき、みんなが住みよい町にするための町の取り組みも聞くことができた。

近年 SDG s に代表される、全ての人が豊かで公平に暮らしていける社会づくりの考え方が広まっている。しかし、それは社会的な流れであり、ほとんどの人は自分に直接関係ないと考えていると感じる。実際私もそうだった。しかし今回の活動を終えて、改めて今の自分にできること、人々が一丸となってすべきことについて考えた時、自分の中で一つの答えが出た。「知り、考え、実行する。」だ。この三つをキーワードに、みなさんもぜひ向き合ってみてほしい。積土成山、一人ひとりの小さな変化こそ、社会全体の大きな変化に繋がる。その変化は社会をより豊かにすると信じている。